

● 年齢別産業間労働移動の状況

年齢計では、鉱業、不動産業を除いて産業内での労働移動が最も多く、一方、サービス業の者は幅広い産業からの労働移動が目立っている。

年齢別にみると、若年層では移動先として卸売・小売業、飲食店が最も多くなっており、サービス業は産業内移動や不動産業からの移動が多くなっている。

一方、中高年層では相対的に産業内の労働移動が多くなっている。

年齢計)

		前 職 の 産 業								
		鉱業	建設業	製造業	運輸・通信業	卸売・小売、飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業	その他
現 職 の 産 業	計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	鉱業	6.3%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	-	0.0%	0.0%
	建設業	0.0%	65.9%	5.8%	3.0%	3.7%	2.0%	15.0%	2.1%	3.7%
	製造業	68.8%	5.8%	47.2%	10.2%	9.7%	9.2%	9.9%	8.3%	11.3%
	運輸・通信業	3.1%	3.9%	6.4%	52.1%	3.8%	5.3%	3.3%	3.3%	4.7%
	卸売・小売業、飲食店	-	11.2%	19.7%	17.2%	63.1%	19.9%	9.9%	28.6%	17.9%
	金融・保険業	-	0.2%	1.4%	1.5%	2.4%	32.8%	4.2%	2.7%	2.8%
	不動産業	0.0%	1.0%	0.4%	0.2%	0.1%	0.8%	20.7%	1.3%	0.6%
	サービス業	21.9%	11.5%	19.0%	15.7%	17.0%	29.8%	37.1%	53.5%	57.7%
	その他	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%	0.1%	1.4%

(資料出所) 厚生労働省「雇用動向調査」

(注) 四捨五入の関係で、必ずしも合計が100%にならないものもある。